



旭日単光章受章

白幡正弘さん（茶屋町）

この度、議会議員を務められた白幡正弘さん（茶屋町）が、これまでの功績が称えられ、旭日単光章を受章されました。

白幡さんは、地域住民に推され昭和54年に余目町議会議員に初当選。同58年4月までと、平成3年4月から合併後の同18年6月までの5期19年もの長きにわたり務められ、町の振興と地方自治の発展に尽力されました。

そのほか、余目町国民健康保険運営協議会委員、余目町都市計画審議会委員などを歴任し、高い識見を発揮され、地域振興、産業、住民福祉の向上に多大な貢献をされました。

白幡さんは、「議員時代は、常に社会的弱者の視点を忘れないよう取り組んだ。これまでの活動が認められたことが、大変うれしい。立派な勲章と賞状をいただき、最高の気持ちです」と話し、これからの目標を伺うと「町の賀詞贈呈事業の条例は、自分が議員時代に議会で可決された。現在88歳。健康に気をつけながら、100歳で賀詞をいただくこと」と当時を振り返り、にこやかに話されました。

環境大臣表彰受賞



(株)大商金山牧場

大商金山牧場（小野木重弥社長）が、この度、環境大臣表彰（地域環境保全功労者表彰）を受賞しました。

大商金山牧場は、県内の民間企業では初めて、自社で生産しているブランド豚である「米の娘ぶた」の豚糞と県内外の食品廃棄物を活用した循環型バイオガス発電事業を平成30年に開始。また、発電した電力を地域の電力会社を通して、山形県内の公共施設などに供給するなど再エネ循環を実践しています。

さらには、自社のブランド豚を地元農家が生産した飼料用米で育て、時に肥育過程で生じる豚糞や、バイオガス発電で生じるメタン発酵消化液を、堆肥や液体肥料として資源を余すことなく有効活用し、再び地元農家還元する循環型農業の取組が評価されました。

小野木社長は「今後も賞におごることなく、エネルギーと農業に関する取り組みを一層進めていきたい。畜産業を核として様々な循環の輪を作っていきたい」と受賞の喜びを語りました。